



# きままに川柳

お題「結婚」

# お便り日和

テーマ「家族」

## お年玉の行方

宇治金時

幼い頃から、親戚にももらったお年玉を「将来にとっておくから」と母親に回収されました。最初の頃は不満もあつたはずですが、毎年続くと諦めもつきまです。素直に渡しながら「本当に貯めているのか」と思っています。疑いが晴れたのは就職後。一冊の預金通帳を「好きに使いなさい」と渡されました。きちり毎年一月に入金された残高は、ちよつとした額に。母よ疑つてごめんさい、と思いつつ、未だに使い道を決められません。

## 田植えの季節に思い出すこと

M・K(肥田町)

今は亡き夫の母は大正生まれ。五十歳で夫に先立たれてからは近くの工場勤め。始業前に田に出かけ、苗の植え直しや、田の草を抜いたり、鎌で畔草(あぜくさ)を刈つてから帰宅。朝食を取り出勤。給料は自分のためには使わず、内孫や外孫の入学や結婚の時にどんと助け舟。我が長男にも大学の入学祝に当時は高価だったパソコン一式を購入してくれました。そのお蔭(かげ)で就職氷河期であつたのに情報処理の職が得られ、夫の母に感謝しています。

## 美味しい水

花とおばさん(妻木町)

私の家は井戸水です。義母は家の水が大好きでした。生前、旅行へ行く時、はなの木大学の編み物、コーラスへ行く時、水菓の空き瓶に「うちの水が一番や」と言い必ず持って行きました。介護施設に入り飲みこみが困難になり胃ろうで5年半頑張りました。水も飲めない義母に家の水を持っていき、唇をぬらした事もありました。一口でもいい、飲ませてあげたかつた。今度、お墓まいりに行く時も、お水いっぱい持っていくからね。

## 義父の優しさ

プクプクさん

結婚10周年を迎える者です。プロポーズし妻からOKをもらった喜びは今でも忘れません。ただその後「妻の父親へのあいさつ」という最大の難関が。義父はあまり多くを語らず、という人でした。あいさつ当日、義父を前にすると緊張で固まり、永い沈黙が。そこで義父が一言。「今日は何か良い話が聞けるんだって？」この一言で、ようやく結婚のお願いをすることができました。改めて感謝の気持ちを伝えられませんでした。この場を借りて。ありがとうございました。

末永く君の瞳を輝かす

足立昌代

結婚し喜怒哀楽で五十年

ラン

結婚し紡ぎ始める人生図

かず慧

結婚しいつ迄続く夢芝居

小阪千枝子

婚活中きつと咲くよ愛の花

ジョージ

模擬婚に三度出演まだ独り

心配性の母

## 7月1日号の投稿募集

お便りテーマは「星に願いを」です。7月7日は七夕。願いが一つかなうとしたら何をお願いしますか？200字以内(タイトル別)でお寄せください。

川柳のお題は「涼」です。  
(1人一句)

締め切りは6月19日(水)です。

### ■応募・問い合わせ

住所・氏名またはペンネームを明記し、秘書広報課広報広聴係へ。

〒509-5192(住所不要)

☎541111(内線185) / FAX 557763

✉koho@city.toki.lg.jp

※応募多数の場合は採用されない場合があります。また、お便りについては、採用に当たり趣旨を変えない程度で表現を変更する場合がありますので、ご了承ください。掲載の際に投稿者へのご連絡は行っていません。